

A 遠隔医療の技術については、例えばですね、手術の方は今、実験的に大学なんかで行われているんですけども、遠隔による診断で、慢性疾患のようなものは、地方では結構行われていると聞いたことがあるんですが。ただですね、一般に言いますと、そうですね、遠隔医療は規制が変わってしまっていて、なかなかできない現状がありまして。

B なるほど、なるほど。

A でも私はですね、遠隔医療を進めること自体は、基本的には良いことではないかと思ってるんですね。

B なるほど、なるほど。

そうですね、私も基本的にはですね、遠隔医療はもうポジティブに取り組んでいいんじゃないかと思ってるんですね。

A はい。

B 医療での対面原則というものをですね、気持ちとしては分かるんですけども、日本には医師がほとんどない地域が結構たくさんありましてですね。そのような金科玉条的な対面原則は、国民をかえって、危険にさらしているのではないかと……。

A ですよ。

B そんな気もするんです。おそらくそんな対面原則を言ってしまうとですね、医療費はどんどんカットされてしまうんじゃないかと、警戒されちゃいますし。医療費をそんなに増やせない現状においてですね、国民の命を守るという観点から考えると、やはり遠隔医療はきちんとやっていくべきだと思うんですね。

例えば D to D がよいとか、D to P とか D to N……ナースプラクティショナーをどうするかとか。各論はいろいろあるとは思いますが……。

A ありますね。

B ただ、看護系大学とか、大学院をあれだけ作ったんですから、ナースプラクティショナーを養成して、医師の指示、それから、ビデオの下で、ナースプラクティショナーなある程度の医療行為をするというのは、いいんじゃないかと思ってるんです。

A なるほど。

(録音終了)